

して淺野財團の牙城に喰入つた諸君の努力に感謝す、不
撓不屈の闘争を續けよ。

○社會大衆黨門司支部 坂本 某

設立當初の第一回第二回の争議を経て殊に二回目の時は
全幹部檢束されたにも不拘あの壓迫、斷壓を排して一糸
亂れず進まれたる結果此處に第六回大會を迎へた事を誇
とする、今や非 常時は國內、國外にあり、無産階級の
手に依り改革すべきである。

○日本勞働總同盟九州聯合會 伊藤 藤 卯 四 郎

諸君五ヶ年間苦闘の跡は涙なくして言ひ得ぬ、第二回の
争議は九州の大争議と云つてよい、幹部は首切られ、或
は負傷し、投獄せられ次々に涙ぐましき事を考へさせる
殘つた幹部諸君の撓まざる努力が第六回大會を迎へた借

ずる、暴風に耐へ抜いた今日會社側は組合を公認したと
同等に待遇して居る、總同盟に於て團體協約を結ぶもの
四十二あり。總同盟は陸上の代表的勞働組合である。

勞働組合法案について資本家と勞働者が膝を交へて話さ
なければ解決せなす。

先般協調會で世話されたる結果吉田常務理事が來られて
縣知事、警察部長等も出席されたのであるが其の第一回
には事業主側僅か六名に過ぎなかつた。それは對座する
と組合を認める事になりわけぬか、尻尾を搦られはせぬ
か、何か要求をされるのではないか、と云ふ不安があつ
た、ところが第二回目は九州に於ける屈指の代表者が三
十名も出席されたのである、これは事業主が組合はスト
ライキを煽動する三百代貫式勞働者がなすものと考へて